



岐阜大学医学部・附属病院の 現状と課題

第4号

2000年10月

序 文

大学設置基準の大綱化に伴い各大学は独自の創意に基づく改革を行ってきており、本学部においても平成6年2月に「岐阜大学医学部・附属病院の現状と課題」の第1号を編集し、今回は第4号を編集する運びとなった。

21世紀直前の今日、価値観の多様化、globalizationの加速を伴う経済構造の変化、少子・高齢化が進む社会変化など、高等教育を取り巻く社会状況の変換期に教育・研究の抜本的改革が必要なことは大学審議会「21世紀の大学像と今後の改革方策」に述べられているとおりである。一方において、現代医学は細分化が進行し、ヒト遺伝子の全配列が明らかになったように急速に進歩したが、生命科学の進歩が遺伝子操作など新たな医の倫理の問題を提起させたのも事実である。

岐阜大学医学部では、教育改善の方策として、テュートリアル教育を他大学に先駆けて平成7年度から開始しており、併せてクリニカル・クラークシップ、臨床実習資格総合判定試験及び客員臨床系教授システムなども行っている。このような教育システムの改革に関連して、本学部ではテュートリアル部門とバーチャルスキル部門からなる全国共同利用施設の「医学教育開発研究センター」を概算要求している。

学部教育の改善と相俟って大学院の活性化は重要課題である。大学院の教育研究の高度化・多様化が必須であることから、本学部でも大学院生を中心とする基礎医学・社会医学系と臨床医学系の共同・協力研究、他学部、他大学、国際共同研究を推進させる努力を行っているが、本年4月からは活性化の一環として昼夜開講型の大学院を発足させている。さらに、新たに独立専攻系の大学院医学研究科を構想しており、その内容に関して学内ワーキンググループでの検討を終了している。

このような教育研究体制の改革実現のために、また、21世紀の医学・医療に対応するために、現行講座制を含む組織の見直しは必要と考えられる。また、岐阜大学医学部及び同附属病院の移転統合がなされようとしているこの時期はこのような組織見直しを行う好時期でもあり、現在は35の小講座を基礎・臨床一体型の5大講座制へ改組する構想が進められている。一方、本年10月から岐阜大学医療技術短期部は岐阜大学医学部看護学科（基礎看護学、母子看護学、成人・老年看護学、地域・精神看護学の4つの講座からなる）となり、医学部は2学科制となる。

医療面での改革も現在の最重要課題の一つである。平成15年度に完成する新しい医学部附属病院は現在基礎工事が進行中であるが、附属病院ではこの期に施設・設備・組織の包括した改革を行っている。新病院の形態に関して、総合診断部門、総合外来部門、総合治療部門を集約化して配置し、臓器別診療と医療の役割分担・機能分担を図り、病棟部門ではクリニカル・クラークシップ室、学生・研修医の仮眠室を配備するなど、卒前・卒後の臨床実習を行い易くする予定である。附属病院の改革目標として、現在、診療改革、地域連帯、患者サービス改革、組織・運営改革、経営改善などの項目において鋭意努力している。

以上の如く、岐阜大学医学部及び同附属病院は新キャンパスの移転統合という好機に合わせて教育・研究・診療の改革を遂行中であり、今後更なる改革の見直しを加えて、21世紀に輝く医学・医療の殿堂になることを願っている。この第4号の編集に多大な尽力を頂いた自己評価実施委員会作業部会の委員並びに担当職員の方々に深甚なる謝意を表したい。

岐阜大学医学部長

森 秀樹

病院完成予想図（イラスト）



病院完成予想模型



柳戸団地との連絡橋（柳戸橋）の完成



周遊道路南面の完成



病院建物工事の現状



建設年次計画

事業名	年	平成11年度 1999	平成12年度 2000	平成13年度 2001	平成14年度 2002	平成15年度 2003	平成16年度 2004	平成17年度 2005	平成18年度 2006	平成19年度 2007	平成20年度 2008
附属病院関係施設			■								
医学部関係施設					■						
基幹環境整備			■								

